

中条郷会誌

第 13 号

2025 年 3 月 21 日発行

～ 悠久・胎内 明日への架け橋 ～

中条郷会事務局



提供 胎内写真コンテスト

胎内市_村松浜星空

目次

- ・「開かれた議会を目指して」……………胎内市議会議長 八幡 元弘
- ・“故郷(ふるさと)”になった胎内市……………一般社団法人 胎内市観光協会 会長 平川 啓一
- ・ヨソモノを感じる胎内市の良さ……………胎内市地域おこし協力隊 重田 爽歌
- ・中条郷会役員会の動向……………中条郷会事務局
- ・編集後記……………中条郷会幹事 石井 隆

「開かれた議会を目指して」

胎内市議会議長 八幡 元弘

中条郷会におかれましては、創立以来、ふるさと胎内市と会員の皆様をつなぐ懸け橋として、また胎内市の応援団として、市のイメージアップやふるさと情報の発信を始め、さまざまな分野で胎内市の発展と繁栄に多大なるご尽力をいただいております。小野武司会長を始め、役員並びに会員の皆様に心から感謝申し上げます。

さて、当市を取り巻く状況は、人口減少、少子高齢化、市民ニーズ・行政サービスの多様化や頻発化・激甚化する自然災害への対応、そして財政の健全化を図りながら地域活性化をどう進めていくのかなど、多くの課題に取組み、解決していかなければなりません。

また、地方議会は、投票率の低下や市議会への関心の低下などの課題を抱えており、議会を市民に理解してもらい、市議会への関心を高め、多様な人材の議会への参加を図っていくことが必要となっております。

そのため市議会では、議会の重要な役割について、市民に知ってもらい、理解が得られるように、これまで以上に開かれた議会を目指して、「各種団体や市民との意見交換会」を積極的に行い市政に反映させるとともに、議会運営について市民の意見を伺う「議会モニター制度」を導入するなどの活動を行っています。加えて、SNSを活用した「本会議のインターネット配信」、「インスタグラムやフェイスブック」による議会活動の情報発信(下記二次元コードからご覧ください。)のほか、昨年12月議会では、地元中条高校吹奏楽部による「議場コンサート(クリスマスソングの演奏)」を開催するなどして、議場に足を運んでいただき市議会を身近で親しみを感じていただけるよう取組みを進めています。このような取組みを通じて、市民に寄り添い、身近で分かりやすい、開かれた議会を通して市政の発展に寄与すべく取組みを進めてまいります。是非、議会傍聴やホームページ等をご覧ください、意見・感想などをお寄せいただければ幸いです。

胎内市は、今年9月で市制施行20年の節目となります。この記念すべき年に、これまでの歩みを振り返るとともに、これからも胎内市が魅力あふれ、将来にわたって住み続けたい胎内市のまちづくりを進めていく契機となるよう取組んでいきます。

結びに、これからも胎内市の応援団として、ご支援とご助言賜りますようお願い申し上げるとともに、中条郷会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝、ご活躍を祈念申し上げます。



議会ライブ
(YouTube)



胎内市議会
ホームページ



胎内市議会
インスタグラム



胎内市議会
フェイスブック

ふるさと “故郷”になった胎内市

一般社団法人 胎内市観光協会
会長 平川 啓一

東京渋谷で生まれ川崎で育った私がここ胎内市に来て早 32 年。すでに還暦を超え今年 63 歳を迎えますので、こちらでの暮らしの方が長くなりました。当初は川崎の自宅から出張という形で仕事に来ておりました。その後鹿児島生まれ鹿児島育ちの女房（来た当初は二人で慣れない雪特に除雪には大変苦労しました）と 5 歳、3 歳の娘たちと正式に移住してきました。もちろん、こちらでの仕事がメインになったこともありますが、胎内市に移住を決めた理由は、美味しいものがいっぱいあること。特にお酒と酒の肴は安くて新鮮で本当においしい。さらに自然が豊かなこと。山・川・海が全てそろっておりリゾート施設もたくさんある。なのに、ど田舎ではなく子育てには最高だと思いました。川崎市に住んでいたので多摩川が近くにあり、山は箱根、海は江の島、湖は奥多摩湖や富士五湖に行くのですが、休日は大渋滞で片道 3 時間以上掛かる時もありました。そして行った先は人で大混雑。でもここは山から川を経由して海まで行っても 1 時間。子供たちには負担がなく遊ぶ時間がたくさん取れ、自然も満喫することができました（最初、後ろを振り返ったら「熊注意！」の看板が立っていてビックリしましたが）。本当に素晴らしいと感じました。

そんな外者の私が現在、どういうわけか観光協会の会長を拝命しております。旧中条町と旧黒川村の合併に伴い、胎内川観光協会を原点として一般社団法人胎内市観光協会が設立され、その時に理事になったのが始まりで、その後様々な経緯を経て今に至っています。

厳しい経済環境下でなぜ本業以外の観光に携わり、観光協会の会長までやっているのか。本業は、胎内市を営業エリアとする小さなタクシー会社を経営しておりますが、タクシー業界はバブル崩壊やリーマンショックによる景気低迷の影響を大きく受けました。その状況を乗り越える方策を必死に模索しましたが、容易には見つかりませんでした。私たちのような地域に密着し地域に支えられている企業は、その地域が良くなること以外に助かる道はありません。そのためには地域を活性化する「まちづくり」が必要と考えました。しかしながら、私の力では大企業を誘致したり、土もいじったことがないのに第 6 次産業を創出したりするのは絶対に無理です。唯一タクシー業に最も近く入りやすかったのが観光でした（観光は奥が深いだけでなく幅も広く、大変難しいということが後に分かったのですが…）。地域の活性化に少しでも寄与できればと観光に携わることとなりました。

胎内市の観光資源はドーンと大きなものがあるわけではありませんが、観光客のニーズに応じそれら小さな観光資源を組み合わせればかなりおもしろいと思っております。観光資源としては奥胎内、楡形山脈、飯豊連峰や胎内川などの自然、胎内スキー場、ロイヤル胎内パークホテル、樽ヶ橋遊園や胎内自然天文館をはじめとする観光施設などが掲げられますが、今回は観光資源としての「米粉」についてお話ししたいと思います。

2009 年（平成 21 年）策定された「胎内市観光振興ビジョン」にある 10 の基本戦略の一つ「『食の胎内ブランド』を強化し、消費・販売機会を拡大しよう」の実現に向け発足した検討会議（私も発足当初からのメンバーでした）において、紆余曲折の議論の後、米粉を『食の胎内ブランド』とし

てみようということとなりました。なぜ米粉になったかという、本誌をご覧の皆様はご存じのことではありますが、1998年（平成10年）に旧黒川村において新潟県が特許取得した微細米粉の製粉技術を活用した国内初の米粉専用製粉工場が建設され、生産されていたことによります。

しかしながら、日本初の米粉専用工場があるといってもビジョン策定当時は、微細米粉を使った料理など全く知られておりませんでしたので、ブランド化以前にまず米粉のことを知ってもらい、米粉料理に興味を持ってもらわなければなりません。そこで米粉のまち胎内市を広く知っていただき、米粉のことを知ってもらうために米粉イベント「第1回米粉フェスタ in たいない」を2011年（平成23年）より開催し、昨年10月の開催で12回目を迎えることができました（途中、新型コロナウイルス感染症拡大のため休止がありました）。日本全国を見ても米粉に特化したイベントは珍しく（唯一では）、胸を張って「米粉のまち胎内市」をアピールできると思っております。今年も第13回を秋口に開催予定ですので、皆様にもぜひお越しいただければ幸いです。

米粉に絡んでもう一つだけ。胎内市には、米粉条例（正式名称は「胎内市米粉の普及促進に関する条例」）があるのはご存じでしょうか。この条例は、米粉の普及を促進することにより、市民の地域への誇りや郷土愛を育み、地域産業の振興を図り、もって活力あるまちづくりに寄与することを目的に2017年（平成29年）7月に施行されました。この条例では、毎月4日を胎内市米粉の日とし、毎年1月17日を胎内市微細米粉発症記念日として制定しており、これらに合わせたイベントや企画が実施されていることがありますので、フェスタ同様こちらもお楽しみいただければと思います。

最後にもう一つだけ。当胎内市観光協会では、ホームページの「胎内観光 NAVI」や SNS で情報発信を行っております。観光に限らず胎内市の情報を取り上げておりますので、ぜひご覧いただければと思います。また、エフエム新発田（76.9MHz）では「胎内観光ナビ with ラジオ」として毎週水曜午後1時30分から2時までの30分番組があり、胎内市観光大使やらにゃんのお父さんでありますやるぞうパパ（本当は観光協会の職員の方です）がMCを務め、胎内市の色々な団体、企業や個人をゲストにお呼びし楽しいトークを繰り広げております。すでに放送も6年300回を超え、長寿番組といってもよいのではないのでしょうか。こちらでも胎内市の様々な情報を発信しておりますので、ぜひ一度聴いてみてください（ただ、ラジオだと受信エリアが限られているのですが、スマートフォンやパソコンで聞くことができます）。

長々と駄文を書いちゃいましたが、私にとって胎内市はもう本当の^{ふるさと}“故郷”です。

これからもずっと、この素晴らしいまち胎内市で暮らしていきたいと思っております。

ヨソモノを感じる胎内市の良さ

胎内市地域おこし協力隊 重田 爽歌

2023年5月、私は東京から胎内市に引っ越してきました。それを人に話すと、大抵「なぜ胎内市を選んだのか」を尋ねられます。選んだ理由はいくつかありますが、理由の1つに初めて会った胎内市の方々の印象が良かったことがあります。

全く知らない土地への移住を選択した人が、そこで楽しく暮らせるかどうかは人間関係が重要だと考えています。私が初めて胎内市の人と話したのは、2023年1月に行われた全国の自治体が集まる移住相談イベントでした。もともと東京以外の場所に住んでみたいと考えていた私は、胎内市の方の雰囲気がなんとなくいいなと思ったことが最終的な後押しとなり、移住を決断しました。そのときに感じた印象は移住して2年ほど経った今でも変わりません。私は、胎内市の山あいにある鼓岡集落に暮らしています。楽しく生活ができているのは、鼓岡の皆さんの温かい雰囲気のおかげでもあります。野菜やおかずをお裾分けいただいたり、夕食に呼んでいただいたり、鼓岡の皆さんとちょっとしたやり取りができる環境が有り難く、あまり経験のなかったご近所付き合いを程よい距離感で楽しんでいます。

胎内市に知り合いが1人もいなかった私が、今こうして楽しく生活できているのは決して当たり前のことではありません。都市から地方に移住した人で、引っ越した先での人間関係をうまく築けずにトラブルに発展したという残念なニュースもあるなかで、ヨソモノである移住者を受け入れる環境があることは貴重だと思います。移住した人が地域に馴染む努力も必要ですが、それだけではなく、そこに住む人がヨソモノを受け入れる空気感も必要で、鼓岡の皆さんはもちろんのこと、胎内市の方もそういった懐が深い人が多いのではないかと感じています。

現在、私は地域おこし協力隊として移住促進の取組を軸に活動しています。胎内市移住ポータルサイトに掲載するコラム記事の作成や、すでに胎内市に移住した人を対象にした交流会の開催、東京での移住相談イベントへの参加などに取り組んでいます。一言で移住促進と言っても、移住につながる取組は多岐にわたり、私1人ができることは正直ほんの少しです。ただ、「人の雰囲気が良さそう」と感じて最終的に移住を決めた私がいるように、ヨソモノを受け入れる風土が胎内市にあることも移住促進につながるのではないかと感じています。

中条郷会役員会の動向

* 2024年6月～2025年1月の期間に3回実施

1回目

◆日時 2024年6月25日(火)

◆討議、確認、決定事項

(1) 収支報告について

中条郷会の収支について出席役員全員で会計内容に誤りがないことを確認した

(2) 中条郷会役員の任務分担を確認した

2回目

◆日時 2024年9月17日(火)

◆討議、確認、決定事項

(1) 2025年中条郷会新年総会の日程と開催場所について検討を行い、下記内容で決定した

① 開催日時

2025年3月21日(金)午後6時30分

② 開催場所

新潟グランドホテル・悠久の間(3F)

(2) 中条郷会会誌(13号)の打ち合わせを実施し原稿寄稿者、掲載内容等を検討した

3回目

◆日時 2025年1月24日(火)

◆討議、確認、決定事項

(1) 新年総会開催にむけた最終調整

案内状文面内容と発送時期の確認

胎内市広報誌への事前広報依頼

余興・出店店舗の確認

PRビデオの上映等

(2) 会報誌の発行について

胎内市への依頼～会員各位へ胎内市の情報を提供するための会報誌13号を、

胎内市ホームページへ掲載依頼

編集後記

中条郷会誌 13 号をお読みいただきありがとうございます。

今回、ご多忙にもかかわらず会報誌の原稿を寄稿していただいた方々には本当に感謝を致します。

この場を借りてお礼を申します。

中条郷会誌は、会員の皆様に胎内市の魅力、情報を紹介する会誌です。

今後も皆様の期待に応えられるよう会報誌の内容充実を図ってまいりますので、どうか会員の皆様にあ
りましても、胎内市に関する情報を提供していただきたくご協力をお願いいたします。

そして、中条郷会発展のためにも新たに会員に加入してくださる方の紹介を是非お願いいたします。

まだまだ寒暖差の激しい時節柄、会員の皆様にはくれぐれも体調を崩したりなさいませぬようお体おい
とください。

会員皆様の益々のご健勝とご繁栄をお祈り申し上げます。

《情報提供先・寄稿先は中条郷会事務局(胎内市商工観光課)》

・住所 〒 969-3693 新潟県胎内市新和町 2 番 10 号

・TEL 0254-43-6111 ・FAX 0254-43-7392 中条郷会幹事 石井 隆